


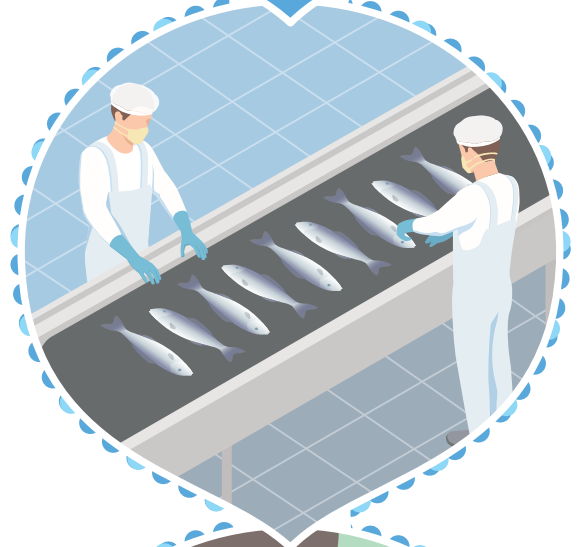
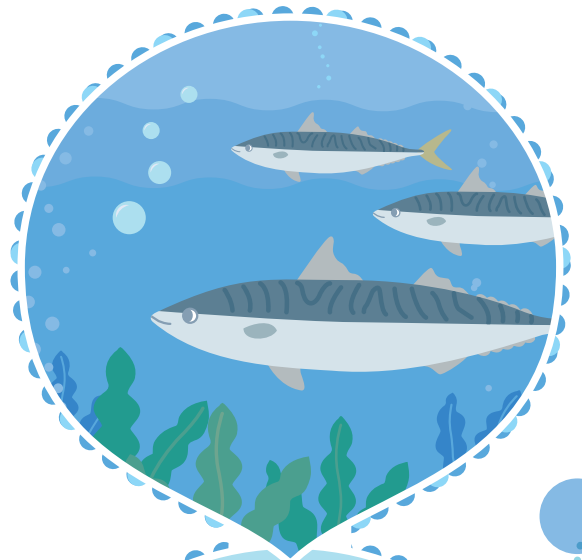
BUSINESS REPORT

第99期 報告書

2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日



いつも となりに
おいしいキョクヨー





代表取締役社長
井上 誠

代表取締役副社長
酒井 健

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第99期(2022年3月期)報告書をお届けいたします。

昨年4月、キョクヨーグループでは中期経営計画『Build Up Platform 2024』をスタートさせました。その初年度であるこの一年は、コロナ禍の長期化によりさまざまな事業上の制約がありましたが、水産商事事業の収益安定化のほか、事業基盤、資源アクセスやブランドの強化に取り組み、好スタートを切ることができました。

引き続き、「経営基盤の強化を図りながら、『事業課題への継続的取組み』と『持続的成長への挑戦』を柱とする戦略を進め、社会と極洋それぞれが共有すべき価値を創造していくことで、新たな成長への礎となる『高収益構造への転換』を目指す。」ことを基本方針に、ESG、SDGsといった持続可能な社会の実現に向けた責任を果たしながら、事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

中期経営計画『Build Up Platform 2024』の進捗と目標達成に向けて

▶▶ 当期(2022年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の制限、停滞から一時的に持ち直しの動きが見られたものの、新たな変異株の出現により感染が再拡大する一方で、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスクが顕在化し、急激な円安が進行するなど、先行き不透明な状況が続きました。

水産・食品業界におきましても、欧米を中心とした需要回復に加え、中国、東南アジア等ではコロナ禍の影響により供給が減少し、原材料価格や輸送費が高騰するなど、依然として厳しい状況が続いております。

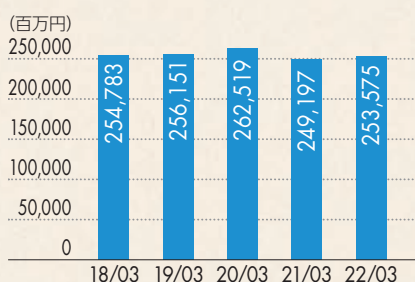
このような状況のもとで、中期経営計画『Build Up Platform 2024』(2021年度～2023年度)の初年度とし

て、「経営基盤の強化を図りながら、「事業課題への継続的取組み」と「持続的成長への挑戦」を柱とする戦略を進め、社会と極洋それぞれが共有すべき価値を創造していくことで、新たな成長への礎となる「高収益構造への転換」を目指す。」という基本方針のもと、ESG、SDGsといった持続可能な社会の実現に向けた責任を果たしながら、目標達成に向け取り組んでまいりました。

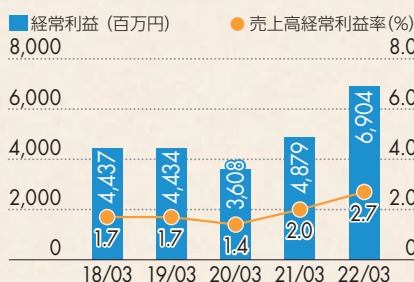
その結果、当社グループの売上高は2,535億75百万円(前期比1.8%増)、営業利益は63億92百万円(前期比37.2%増)、経常利益は69億4百万円(前期比41.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は46億34百万円(前期比20.7%増)となりました。

主な連結財務指標

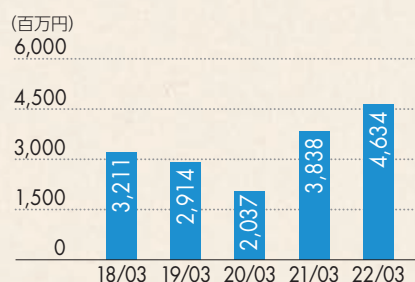
売上高



経常利益/売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益



各セグメントの状況は以下の通りです。

水産商事セグメントにおいて、国内販売では、長引くコロナ禍にあって、主要魚種のサケやエビについて、量販店を中心に加工品の販売が順調に推移したことに加え、年末商戦では高額商品のカニ、魚卵の販売が伸長しました。また、北洋魚も在庫管理の徹底により、利益が改善しました。さらに、欧米各国ではウィズコロナ政策の浸透により水産物の需要が回復したことから、先高観が強まり、日本国内でも加工用原料の販売が伸長しました。以上のことから、計画を大幅に上回る利益を確保しました。

海外事業については、中国向けのホタテの輸出が伸長したほか、消費が回復した北米の現地販売が持ち直しました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

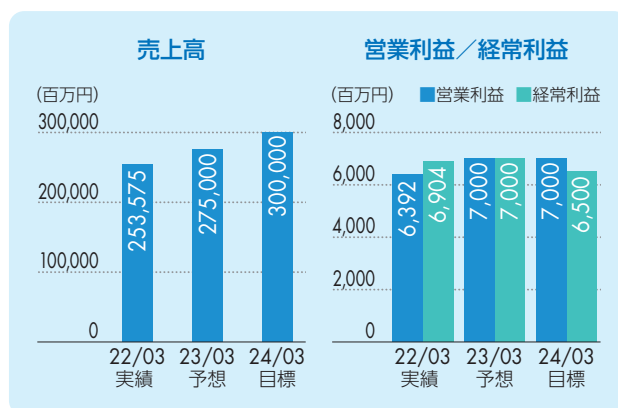
食品セグメント^(※)において、業務用冷凍食品は、寿司種をはじめとする生食商材は一定の販売を確保しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、外食・給食ルートにおいて主力の水産フライ製品を中心に販売が減少しました。

市販用冷凍食品は、煮魚・焼魚の東南アジア工場における生産量が一時的に減少したものの、ドラッグストア向けに販売が伸長しました。缶詰は健康志向を捉えた新商品を投入し、主力の青物缶詰、ツナ缶の拡販に努めましたが、巣ごもり需要が一服し、主力量販店での売上が減少しました。全体として、原材料高騰や海上運賃の上昇により収益が圧迫されました。この結果、売上・利益とも前期を下回りました。

鯉・鮪セグメントでは、輸入冷凍クロマグロの取扱いが増加し、量販店、回転寿司ルートを中心に加工品も好調に推移しました。国産クロマグロの養殖事業は、品質の向上および出荷体制の安定化により、利益改善に貢献しました。また、海外まき網事業は、水揚げ数量は減少したものの、カツオの魚価回復により、収支が改善しました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

物流サービスセグメントにおいて、配送事業は、海上輸送の混乱による国内幹線輸送の増加に対して取り組みを強化し、売上を伸ばしました。倉庫事業は、水産物の堅調な需要に支えられ、出庫数量は増加したものの、入庫数量が前年並みに止まり、在庫数量の減少により利益面で影響を受けました。この結果、売上は前期を上回りましたが、利益は前期を下回りました。

※前期との比較は、セグメント変更後の数値に組み替えて行っています。



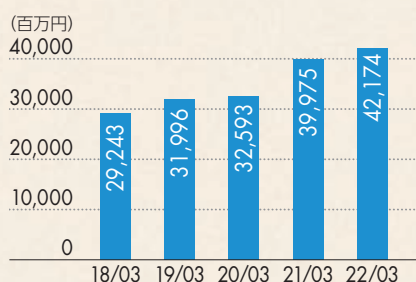
次期(2023年3月期)の計画目標

次期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症からの持ち直しが期待されるものの、円安の進行や生産コスト高騰による商品価格上昇が消費に与える影響など、依然として先行きは不透明な状況にあります。水産・食品業界におきましても、ウクライナ情勢やそれに伴う原材料価格、輸送費のさらなる上昇が懸念されるなど、引き続き厳しい経営環境が予想されます。

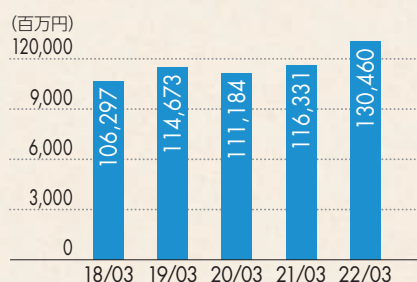
このような状況のもと、当社グループは中期経営計画『Build Up Platform 2024』の2年目として、目標達成に向けて着実に取り組んでまいります。

次期の業績予想は、売上高2,750億円、営業利益70億円、経常利益70億円、親会社株主に帰属する当期純利益49億円を見込んでおります。

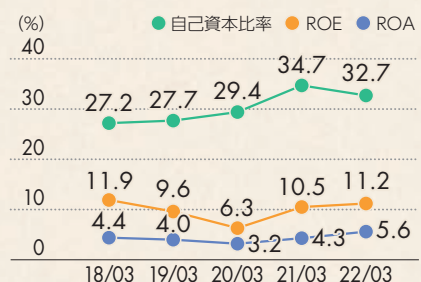
純資産



総資産



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)



TOPICS

2021.4-2022.3

セグメント変更

従来の「冷凍食品」と「常温食品」を統合し、「食品」セグメントとしました。

海外まき網新船が進水

カツオを漁獲する海外まき網船「第11わかば丸」が進水しました。水産資源の持続性に配慮した、国際的競争力を有する大型船で、8月の出漁を予定しています。



2021年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2022年

1月

2月

3月

新企業CM放映開始

おいしいの先にある「生活を楽しむための食」を表現したCMで、キョクヨーブランドの強化を図っています。

KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co.,Ltd.の工場完工

煮魚・焼魚や寿司種などを製造する海外基幹工場として、日本だけでなく、東南アジアや欧米へグローバルな商品供給を担っています。



サステナビリティ

SUSTAINABILITY

» SeaBOS 第5回キーストーンダイアログ

2021年10月に、「SeaBOS」参加各企業のCEOが出席する第5回キーストーンダイアログがWEBで開催されました。「SeaBOS」は、世界の水産大手企業10社(日本からは、当社とマルハニチロ(株)・日本水産(株)が参加)と科学者で構成されており、持続可能な水産資源の活用・健全な海洋および地球環境を達成するため、課題抽出・目標設定を行っています。

今回は、「IUU(違法・無報告・無規制)漁業および現代奴隷制の排除、絶滅危惧種への影響軽減」、「抗菌剤の使用削減」、「海洋プラスチック問題」、「温室効果ガス削減」等に関して討論が交わされ、目標が設定されました。課題解決に向けて、取り組みを継続していきます。



左から
日本水産(株) 浜田 晋呉 代表取締役社長執行役員最高経営責任者(CEO)
ストックホルム・レジリエンス・センター ヘンリック・オスターブロム教授
(株)極洋 井上 誠 代表取締役社長
マルハニチロ(株) 池見 賢 代表取締役社長

» 「キョクヨーグループサステナビリティ基本方針」および「キョクヨーグループ人権方針」策定

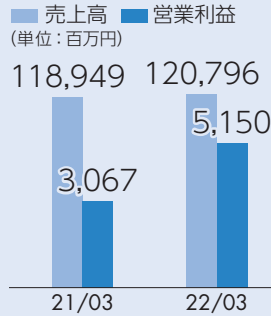
2021年11月、キョクヨーグループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上において、重要な経営課題であるサステナビリティの取り組みをさらに推進するため、「キョクヨーグループサステナビリティ基本方針」を策定しました。また、その方針のもと、人権尊重における基本的な考え方と責任を明確化するため、「キョクヨーグループ人権方針」を策定しました。人権尊重の取り組みと責任ある事業活動を推進し、事業活動を通じた社会的課題の解決により、社会の持続可能な発展に貢献していきます。

水産商事事業

セグメント別
売上高構成比
47.7%

売上高 **120,796** 百万円
営業利益 **5,150** 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身やカニ、エビの剥き身などの加工品を提供しています。また、日本で漁獲された水産物の輸出や三国間貿易を積極的に進め、市場が拡大している海外への販売を強化しています。

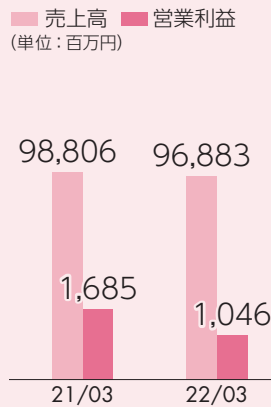


食品事業

セグメント別
売上高構成比
38.3%

売上高 **96,883** 百万円
営業利益 **1,046** 百万円

業務用冷凍食品では、寿司種・煮魚・焼魚、水産フライやカニ風味かまぼこ、骨なし切身をはじめとする「だんどり上手」シリーズなどを、外食ルートや量販店の惣菜売場、医療・介護施設などに販売しています。市販用では、煮魚・焼魚やフライ製品などの冷凍食品のほか、1949年の製造開始から長い歴史を持つ缶詰については、サバ、カツオなどの魚介缶詰をはじめ、畜肉・農産缶詰を取り揃えています。その中で、こだわりと工夫を備えた市販ブランド「シーマルシェ」の商品拡充を図っています。また、さきいかなどの珍味類のほか、グルコサミンやDHAなどの健康食品も販売しています。

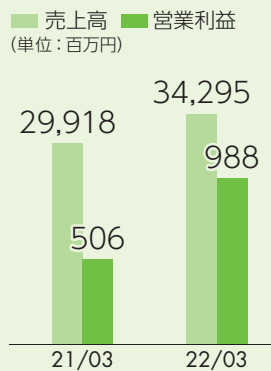


鯉・鮪事業

セグメント別
売上高構成比
13.5%

売上高 **34,295** 百万円
営業利益 **988** 百万円

カツオ、マグロの漁獲・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」による独自の調達力があります。マグロについては、サステナビリティと資源アクセス強化を考慮した養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」に加え、完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ(TUNAGU)」も国内外からご好評をいただいています。また、高知県でマダイやブリなどの養殖にも取り組み、養殖魚種の拡充を図っています。

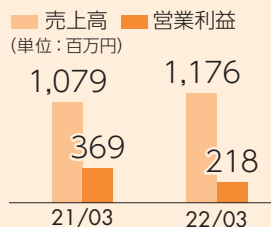


物流サービス事業

セグメント別
売上高構成比
0.5%

売上高 **1,176** 百万円
営業利益 **218** 百万円

東京の大井および城南島、福岡の3事業所において冷蔵倉庫事業を中心に、倉庫からの配送手配などのロジスティクス・サービスを提供しています。



キョクヨー秋津冷蔵(株) 東京事業所

◆ **会社概要** 2022年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
 英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
 本社所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
 設立 1937年9月3日
 資本金 56億6千4百万円
 主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品および冷凍食品の製造販売
 従業員数 2,208名(連結) / 695名(個別)
 連結対象会社数 25社

◆ **役員の状況** 2022年3月31日現在

役員
 代表取締役社長 井上 誠 取締役 三浦 理代
 代表取締役副社長 酒井 健 取締役 白尾 美佳
 専務取締役 近藤 茂 取締役 町田 勝弘
 常務取締役 木山 修一 取締役 山田 英司
 取締役 田中 豊 常勤監査役 田村 雅治
 取締役 西村 斉之 常勤監査役 菅野 洋一
 取締役 山口 敬三 監査役 志村 和彦
 取締役 檜垣 仁志 監査役 西浜 正幸

◆ **株主優待のご案内**

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

対象株主 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主様
優待の内容 ●1単元(100株)以上3単元(300株)未満所有の株主様には2,500円相当の当社製品を贈呈
 ●3単元(300株)以上所有の株主様には6,000円相当の当社製品を贈呈
贈呈時期 毎年7月予定

◆ **株主メモ**

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 定時株主総会基準日 3月31日
 期末配当金基準日 3月31日
 公告方法 当社の公告方法は、電子公告としております。
 公告掲載URL : <https://www.kyokuyo.co.jp>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、東京都内において発行される日本経済新聞に掲載する方法により行います。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話: 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

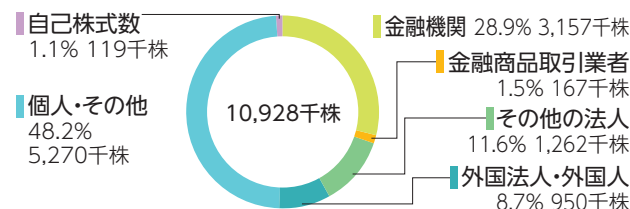
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

◆ **株式の概況** 2022年3月31日現在

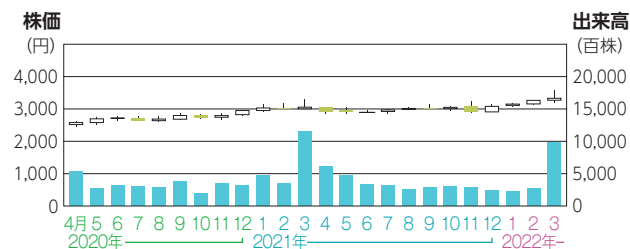
発行可能株式総数 43,700,000株
 発行済株式の総数 10,928,283株
 株主数 28,937名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	954	8.83
株式会社りそな銀行	523	4.84
農林中央金庫	445	4.11
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	316	2.92
東洋製罐グループホールディングス株式会社	315	2.91
三井住友海上火災保険株式会社	250	2.31
東京海上日動火災保険株式会社	224	2.07
極洋秋津会	149	1.38
SCBHK AC LIECHTENSTEINISCHE LANDESBANK AG	143	1.32
中村 格彰	140	1.30

所有者別株式数分布状況



株価および出来高の推移



WEBサイトのご案内

キョクヨーの事業概要やESGに関する情報、商品や商品を使ったレシピのほか、IR関連など最新の情報を掲載しております。
 スマートフォンでもご覧いただけますので、右下のQRコードをご活用ください。



<https://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

